

令和3年3月18日

静岡大成中学校第17回卒業証書授与式 学校長式辞

暖かい日差しを浴びて、桜の花も咲き始めました。

本日、静岡大成中学校、第17回卒業証書授与式が挙行できましたことを大変うれしく思います。多くの保護者様に、コロナ禍の中ご出席いただいたことに感謝申し上げます。また、ご多用の中PTA会長、前田徳久様、同窓会長、仁田桂子様のご臨席を賜りましたことに、衷心より厚く御礼申し上げます。

保護者の皆様、本日はお子様のご卒業、誠におめでとうございます。入学して間もない、小学校を卒業したばかりのわが子を、朝から夜まで学校に預けることはさぞ不安だったことでしょう。それから今日まで、陰になり陽向になり、お子様の成長を見守って来られ、嬉しかったことや辛かったことなど、さまざまな思いが、走馬灯のようによみがえってきていることと思います。この3年間、本校の教育方針に、ご理解とご協力を賜りましたことに、心より感謝申し上げます。

53名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。心よりお祝いをいたします。中学に入り、環境が大きく変わり、期待と不安の中で、勉強や部活動、スターライトクラスが始まりました。この3年間皆さんは、楽しかったことや嬉しかったこと、辛かったことや思うようにいかなかったことなど、さまざまな経験を通し、大きく成長したと思います。

その中で、中学校生活最後の年は、コロナ禍により、皆さんにとって大変苦難に満ちた年になってしまいました。

新年度が始まると早々に休校となり、対面授業も部活動もできない日々が1ヶ月以上続きました。高校受験や、最後の中体連に向けて、自分が描いていた学校生活が送れない中で、不安な毎日を送ったことと思います。

一番楽しみにしていた、沖縄修学旅行も中止となってしまいました。皆さんには、沖縄の美しい海を見て、平和の尊さを肌で感じてほしかった。本当に残念です。さらに、最後の活躍の場である、中体連も中止となってしまいました。目の前の目標がなくなり、どんなに悔しかったことでしょう。しかし、皆さんはそれらを乗り越え、受験というハードルを越えて、今日ここに到達したのです。私は心から拍手を送りたいと思います。

また、在校生は、皆さんが苦難を乗り越え、今日まで前を向いて歩いてきた姿を、ずっと見てきました。先輩たちの姿は、後輩たちをどんなに勇気づけたことでしょう。皆さんには、この中学校生活最後の年を、ぜひプラスに捉え、今後の自分の財産にしてほしいと願っています。

さて、皆さんに紹介したい言葉があります。それは、「あきらめなければ、あきらめた人に勝てる」という言葉です。これは、オリンピックの女子マラソンで、日本人でただ一人、2大会連続でメダルを獲得した、有森裕子さんが言った言葉です。有森さんは、リクルートという会社に入社した当時、誰よりも遅いランナーでしたが、「オリンピックに出たい」という情熱と覚悟で、想像を絶するトレーニングに耐え、メダルを獲得した人です。

「あきらめなければ、あきらめた人に勝てる」この言葉は、他人に勝つための心得のように読めます。しかし、私は、この言葉は弱い自分との戦いに勝つための言葉だと思います。すぐにあきらめようとする自分がある、その自分を励ますための言葉なのではないでしょうか。

「自分はこうしたい」、そのためには「こうしなければならない」と、目標をしっかりと持ち、「あきらめない」気持ちを持ち続けたことが、メダル獲得という偉業を成し遂げたのです。

皆さん、高校に入ったら目標をしっかりと持ち、「あきらめない」でやり通してください。高校では、スターライトクラスも無く、中学の時のように先生たちが丁寧に勉強を教えてくれないかもしれません。そういう中で、勉強も部活動もレベルが上がり、壁に突き当たることがきっとあると思います。

でも、目標がしっかりあれば、簡単にあきらめることは無いはずです。もし、「もうムリだ」とか、「やらなくてもいいや」とあきらめそうになったら、この有森さんのことばを思い出して、自分自身を励ましてください。

最後に、本校の校訓「凛々しきこと、優しきこと」が、これからも、みなさん一人ひとりの心の中で、生き続けてくれることを願っています。

この言葉は、1914年、大正3年に、本校創立者杉原正市先生が、修身講話という道徳の時間に生徒に諭したことばであり、106年間語り継がれてきたことばです。

この学校で過ごした3年間を思い出すことばとして、ぜひ大切にしてください。

それでは、卒業生の皆さんの今後のご活躍を祈念して、式辞とさせていただきます。ご卒業おめでとうございます。